

熊本県立大学が持続可能な地域のあり方というテーマでフィールドワークを実施

< 熊本県 >

市町村・集落の名称	あさぎり町内一円
協働の相手（企業や大学等）の名称	熊本県立大学「KUMAJECT2008」 熊本市月出3丁目1番100号
仲介者・コーディネーターの名称	あさぎり町グリーン・ツーリズム研究会
協働のポイント	県立大学と町と包括協定を結んだ経緯等があり、数回の事前打ち合わせや取り組み等は容易であった。
協働のきっかけ・経緯	あさぎり町は、4年前から都市と農村との交流を目的としたグリーン・ツーリズムを推進するために、民間組織のGT研究会を立ち上げた。特に若い世代との交流を活発化させたいという意向があり、地域内に活気づける機会を模索していたところ、同町と熊本県立大学との包括協定を結ぶことで、平成19年度から「KUMAJECT」という学生達のフィールドワーク等の具体的な取り組みへと発展した。
取組の具体的な内容	地域の現状を把握して、具体的な提案をまとめていくKUMAJECTというフィールドワークを実施したいという県立大学からの相談があり、「持続可能な地域のあり方」というテーマで、数回にわたって来町し、現地ヒアリングや農家民宿体験等により最終的な報告書を提出頂いた。
農村地域への効果	県立大学KUMAJECTメンバー27名が農家民宿を体験し、受け入れた農家も継続的に交流を行っており、平成20年度も引き続き、フィールドワーク等を実施している。
都市部の主体（企業や大学等）への効果	平成20年度の県立大学の「白亜祭」において、本町の物産販売やグリーン・ツーリズムの情報発信等を行い、あさぎり町と交流のある学生もPR活動へ一緒に参加した。
仲介者等の役割	県立大学と地元住民との橋渡し役として、事業計画の立案やフィールドワークのスケジュール調整等を行った。また、報告会における町民への呼びかけ等も行った。
今後の課題	同大学の取組の継続にあたり、今後「関係者の収入増・雇用確保」や「交流人口の増加」など具体的な数値目標を設定し、その達成度を把握することが必要とされるが、数値目標等の設定が難しく、如何にして地域（住民）を巻き込んだ効果のある実践活動として推進・保持していくかが課題。
関連事業（国・都道府県等）	

(活動状況写真等)

